

氏名： 長谷川 直子 (HASEGAWA Naoko)
所属： 人間文化創成科学研究科先端融合系
職名： 准教授
学位： 博士 (理学)
専門分野： 自然地理学 / Physical geography、陸水学 / Limnology
E-mail： hasegawa.naoko@ocha.

◆研究キーワード / Keywords

陸水物理 / 密度流 / 地球温暖化
physical limnology / density current / global warming

◆主要業績

総数 (5) 件

- Hasegawa-Ishiguro & Okubo (2008), Glacial melt inflows in lake Geneva. Verhandlungen Internat. Verein. Limnol. - SIL vol. 30(4) pp643-646.
- 長谷川直子 (2008) 気候温暖化と湖沼—琵琶湖を例に—, 滋賀県立大学環境科学部年報 13号 .13-17.
- 長谷川直子 (2008) 近年の琵琶湖をめぐる環境課題, 地理 52 (8) 36-42.
- 長谷川直子 (2008) 「琵琶湖北湖深層における溶存酸素等の経時変化に関する研究」2007年度 財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構 委託業務 報告書
- 毎日新聞 滋賀版 25面 2008/5/30

◆研究内容 / Research Pursuits

1. 琵琶湖に流入する融雪起源の密度流の解明をテーマに研究している。
観測結果によると、密度流は冬季に間欠的に、なおかつ高頻度であらわれていることが明らかになった。
このことは、毎日新聞滋賀版 (2008/5/30) で報じられた。
2. 近年の温暖化により、琵琶湖は深層の溶存酸素の現象が懸念されており、現在環境省の地球環境総合推進費によって「Fa-084 温暖化が大型淡水湖の循環と生態系に及ぼす影響評価に関する研究 (代表 永田俊)」のなかで、琵琶湖の物理環境を解明する研究チームのメンバーとして研究を行っている。

◆教育内容 / Educational Pursuits

・「自然と人間」

自然環境と人間とのかかわりとして、環境問題に焦点をあて、環境問題を理解するための様々なアプローチ方法を紹介します。具体的には環境行政、環境経済学、環境倫理学などのような枠組みのみならず、合意形成理解のためのディスカッション、身近な環境問題を理解するためのフィールドワーク、森林保全体験ツアーなどを行い、机上の空論ではない体験型授業を目指している。

・「自然地理学」

自然地理学の概観（地形、岩石、植生、気候、水文）を行った。また、気象庁に併設する気象科学館への学生引率を行った

・地理学フィールドワーク B

高尾宿泊気象観測、琵琶湖調査への学生参加などをおこなった。

◆メッセージ

環境問題を理解するためには自然科学も社会科学も必要です。両方勉強するのは大変です。そんな大変なことをやりたい！という方を大歓迎します。